

学び合い、高め合い、励まし合い、認め合う教育の追求

全国協同学習研究会会報 2006年度 1号

発行日：2006年6月30日

事務局

新年度のご挨拶

2006年度会報第1号をお送りします。新しい時代の学力を育む有力な考え方としての協同学習への関心の高まりは次第に大きくなってきているという印象です。

昨年度は、第37回の全国協同学習研究大会を、東京、練馬区立練馬第三小学校を会場に、盛会裏に開催できました。続く日程で開催された日本協同教育学会第2回大会とのジョイントで、ワークショップなど経験された会員の方々も多くいらっしゃいました。また、それらの大会とは別に、南山大学では教員養成 GP (good practice) の研究の一環として協同学習を取り上げ、数回の協同学習ワークショップを開催しました。その折の合宿での激論などは、協同学習にかかわる仲間ならではの雰囲気といえるでしょう。このGPは今年度も続きますので、インターネットなどでぜひアンテナを立てておいてください。

実践校も少しずつ広がりを見せています。千葉、東京、岐阜、愛知、三重、石川、兵庫、岡山、鳥取などで、それぞれ多くの学校が協同学習研究会での成果を実践に生かそうと試みてきています。また、われわれ全国協同学習研究会に劣らず、西日本を中心に輪を広げてきている「個集研」も毎年年末に大会を開き、充実した実践交流を数多く行ってきています（今年は年末に岡山で行うという情報が入っています）。さらに、関東や九州では日本協同教育学会のスタッフが少しずつ実践校とのかかわりを作りあげてきています。

あとで詳しくご案内しますが、8月5、6日に、南山大学で日本協同教育学会の第3回大会が開催されます。夏休みですので、ぜひスケジュールをご調整ください。そして、わが**全国協同学習研究会は、来年2月16、17日に、犬山市立犬山北小学校を会場に第38回大会を開催**する予定です。これもぜひスケジュールに入れておいてください。本号では会場校の実践の一部をご紹介します。地域との連携まで視野に入れた協同学習実践校として興味深い事例に多く触れることができると思います。

今年度も、この会として、様々な有益な情報の創造と交流を図りたいと考えています。事務局の努力に加え、会員の皆様の積極的なご参加をあわせて強くお願いいたします。

研究会会長 杉江修治

平成 18 年度 犬山市立犬山北小学校学校経営方針の紹介

学びの学校づくりー共に学び共に育つー

今年度大会開催校の犬山市立犬山北小学校では、学校のマニフェストともいうべきねらいをもった学校経営案「学びの学校づくり」を PTA と共同で作成しています。その内容を紹介することで、どのような学校なのか、知っていただくと考えました。

I 犬山北小学校の目指す教育

共に学び 共に育つー教師と保護者、地域の人々が、役割分担と協力連携をし、共に子育てをするー

○学校公開日を毎日実施する

- ・朝の会から授業、給食、帰りの会までの1日の生活を毎日公開し、保護者、関係者等に子どもたちの学校生活を正確に理解してもらう。
- ・学校へ多くの保護者、関係者を招くことで、外部からの不審者の侵入防止、及び通学路の防犯の機能ももたせる。

○学びの授業を推進する

- ・職員の校務分掌を完全な一人一役に簡素化し、教師が授業に専念できる体制を整え、指導力の向上を図る。
- ・外部指導者を招いて、授業の活性化を図り、活動の多様化を目指す。

○PTA活動の改革をする

- ・教師と保護者が一体となって、教育を担うために、いつでも、どこでも、だれでも参加できるPTA活動を推進する。
- ・子どもとのふれあいをPTA活動の中心におき、PTA活動の日常化を図る。

○学校づくりを町づくりに位置づける

- ・学校づくりを町づくりの一環としてとらえ、子どもが地域の行事や活動に主体的に参加し、地域の一員としての資質を身につけるとともに、郷土愛を深める。

II 学びの学校づくり

(1) 一人一人の学びを保证する「学級づくり」

- ①すべての学級を35人以下の少人数学級にすることにより、子ども同士、教師と子どもとのふれ合いを深め、きめ細かな指導を行う。
- ②少人数学級に加え、少人数授業やTT授業を実施し、さらに、個別指導を可能とする人的配置を行う。
- ③NPOの教育ボランティアを導入し、個別指導等による柔軟な援助を行う。

(2) 「学びの学校づくり」のための体制づくり

- ①教務関係、校務関係の分掌を関連づけた完全な一人一役の運営機構により、学校運営の簡素化、効率化を進め、教師が授業に専念し、学びの授業の追求をする。
- ②校務分掌にPTA委員会組織と学校支援者等を位置づけ、学校運営の活性化と円滑化を図る。
- ③校長の学校運営に係る当面の諸課題及び中長期的な課題に対し、広く意見や助言をもとめるため地域の代表者や学識経験者による「犬北小 学びの学校づくり推進評議会」を設置し、「共に学び共に育つ」教育を一層推進する。
- ④学校と家庭、地域との連携協力を一層深めるため、学校の企画委員会に保護者や関係者にも参加をしてもらい意見を聞く。
- ⑤美化意識を日常的なものとするために、定時の清掃時間は最小限にとどめ、子ども同士が自由に関わり合いながら遊びを創造できる「遊びの時間」を40分間毎日設ける。
(金曜日のみ、大掃除を行い、遊びの時間はなし。)
- ⑥校長室を廃止し、自由で多様な方々との出会いの場となるよう、子どもたちや保護者、地域の方、学校職員が校長等と共に語り合える「語らいの部屋」を設ける。

(3) 地域の教育力を生かした授業の活性化

- ①総合的な学習や教科の学習などに地域の優れた教育力を取り入れて活性化を図り、子どもたちの授業への意欲と理解を深める。
- ②クラブ活動では、専門的な知識と技能を持った地域の人々の全面的な支援のもと教師と連携し、より高い技能の習得と豊かな人間性の育成に努める。

(4) 教師による主体的な「授業づくり」

- ①「授業づくり」のための研修
 - ・現職教育の主題「自らの学びを創造する子どもの育成―伝え合う 深め合う力を伸ばす指導の工夫―」
 - ・目標や課題に向かってお互いの力を出し合い、助け合いながら、自分なりの学びを創造していく子どもたちを育み、その成果と学習の姿を「全国協同学習研究大会」の中で公開する。
 - ・子どもたちの主体的な学びを実現するため、評価と指導の一体化を図る。また、生きる力を育む指標として通知表の中に学び合いの姿を評価する内容を設定する。
 - ・1年生においては、学力を育むためにはその発達段階の特性から、生活習慣や学習習慣を身につけることを重視し、前期の通知表をなくし、保護者と教師が随時コミュニケーションをとりながら目標を設定できる「すこやか交信」を作成する。通知表による評価は年度末のみとし、1年間を見通した長いスパンの中で適切に評価し、子どもたちの健やかな成長を育む。
 - ・副教本「国語・理科・算数」を活用し、基礎基本の定着と発展学習の充実を図るとともに、自主的な教材開発に努める。

②学びの姿の公開

- ・学校公開日を毎日設定し、1日の学校生活をいつでも参観できるようにして保護者と教師が同じ視点で子どもを理解する。
- ・子どもたちの日常の姿を公開することで、学びの取り組みを理解してもらい、地域との連携を深める。
- ・子どもと保護者、教師が共に学ぶ「ふれあい授業」を設け、学ぶ楽しさを共有し、子どもの理解を深めるとともに、保護者と教師、保護者相互の連携を深める。
- ・学校を保護者、関係者に開放することで、外部からの情報を収集し学校経営に役立てる。

Ⅲ 共に学ぶPTA活動

- (1) 修学旅行や勤労生産的・体験的行事、総合的な学習などの教育活動に、保護者が直接関わり、教師と保護者が一体となって、子どもの成長を促していく。
- (2) 教師と保護者、子どもとのふれあい活動が中心となるようPTAを組織編成し、学年を単位とした三者の相互関係を活動の原動力とする。

Ⅳ 町づくりの中の学校づくり

- (1) 市の自治基本条例の制定に向けての動きの中で、学校を「まちづくり」の拠点に位置づけ、子育てにかかわる全領域の関係者、関係機関・団体等とが協力連携し子育てを進め、その成果を子育ての教育フォーラムとして公開する。
- (2) 「犬山城下町夏まつり」など地域の行事や活動に、子どもたちが学校で培った力を発揮し活躍することで、地域の一員としての意識と郷土愛を身につける。
- (3) 学校づくりを町づくりの一環としてとらえ、学校が町づくりのシンボルとなるよう、施設開放や物的・人的環境づくりなどを地域や行政に働きかけていくとともに、学校の情報発信と交流の場として「学び庵」を設置し、運営する。

・・・2007年2月16日が全国協同学習研究会第38回大会、翌日は、PTA、子育てにかかわる地域の諸団体、福祉課から分かれた「子ども未来課」という市行政などが集まったの子育てフォーラムまたは分科会を予定しています・・・

思考研究からみた学びと授業力

田中俊也（関西大学文学部）

私たちは、何かせねばならない時、何か問題が生じている時に「考え」ます。なぜ「考え」るかということ、その「課題」や「問題」を解決したいからです。したがって、「考える」ことすなわち思考は、基本的に問題解決的な状況が生み出すものと言えます。

学校でひとりで考えるときには、目の前の問題状況を見て、それを解決するにふさわしい手段や方法を、自分ひとりの頭の中の「長期記憶」に蓄えられた知識の中から適切なものをひとりで選んで、うまくいったかどうかをひとりで確認します。このとき必要とされる学力は、いかに多くのことから長期記憶に蓄えるか、また、いかに適切に、早くそれを引き出すか、という形で表すことができます。いわゆる「テスト」で、できるだけ早く、できるだけ正確に個人の記憶庫の中から適切な情報を取り出す力が要求されていることとなります。

しかしながら、実際の生活場面においては、たいていいつも複数の人と協同してことごとくにあっていて、複数の人といっしょになって問題解決にあたることが多いものです。そのとき、ひとりで問題解決をしている時とは全く異なる「力」が要求されます。

たとえば、自分以外の誰かのアイデアや主張が、話を続けているうちにまるで自分がもともとと言っていたことごとであるように思えてくることや、逆に、自分が言っていたのに議論のなかでやがて相手ももともとと言っていたように思ってしまうことがよくあります。

これらは、厳密に言えば誤謬すなわちエラーです。相手が言っていたのに自分が言ったとみなすエラー、自分が言っていたのに相手が言ったとみなす「エラー」ということとなります。

しかしこれはエラーではありません。集団でものごとを考え、問題解決していこうとするときにもっとも要求される「力」の1つです。特に、相手が言っていたことなのに議論を続ける中で心から自分で発案・発想したと思えるようになること、これが協同で問題解決にあたるときに必要とされるもっとも大きな力です。この力があって初めて、小集団での学習が本当の学びに成長していくのです。

こうした力は、大人になって急に身につけようとしても無理です。自我が確立してしまった成人は、「自」と「他」を意識的に区別し、もともと誰の発想か、結論として採用した意見がもともと誰のものであったか、もしそれが自分のものでなければ、「仮の」合意をしたにすぎない、と、オリジナルなアイデアの発案者にこだわってしまいます。過剰に「自」と「他」を区別しようとする志向を断ち切れず、そうしなければ自分は「エラー」を犯している、と考えてしまうためです。

このような大人にならないためには、児童期に小集団での議論の機会を多く設け、他者の意見を取り入れ自分の意見を他者に取り込ませることが当たり前であることを数多く経験させることが必要です。

協同学習での授業は、こうした、人間が生きていくためにもっとも必要とされる社会的相互作用の力を身につけさせるのにもっともふさわしい学習形態の1つであると言えるでしょう。「長期記憶」は、参加者間をダイナミックに移動していくのです。

日本協同教育学会第3回大会案内

JASCE 事務局より

テーマ：『協同』で学ぶ、『協同』を学ぶ

期日： 2006年 8月 5日・6日

会場： 南山大学D棟（名古屋キャンパス）

基調講演：佐藤学氏（東京大学大学院教授）

演題：協同的な学びにおける互惠的關係

- 8月5日 9時30分 受付開始
13時～15時 基調講演
15時15分～16時10分 フォーラム
16時20分～17時30分 研究発表
17時40分～19時 懇親会
- 8月6日 9時30分～12時 ワークショップ1
13時～16時 ワークショップ2

- 参加費***大会参加費 2,500円(会員・学生)/3,500円(非会員)
*ワークショップのみの参加費 2,000円(会員)/3,000円(非会員)
*懇親会参加費 4,000円

アクセス ◎地下鉄 名城線「名古屋大学」下車徒歩10分
詳しくは人間関係研究センターホームページ参照
<http://www.nanzan-ac.jp/NINKAN/access.html>

申し込み・問合せ先 日本協同教育学会事務局まで電子メールでお願いします。



出版案内

◎習熟度別指導の実証的研究についての翻訳がやっと出版されました。

ジュディス・イールソン、スーザン・ハーラム 著

杉江修治・石田裕久・安永 悟・関田一彦 共訳

『個に応じた学習集団の編成』

ナカニシヤ出版 2800円

*書店でお買い求めください。なお、部数がまとまった場合は事務局に一度お問い合わせください。

◎また、実践資料が2冊刊行されました。

協同教育実践資料① 米子市日吉津村中学校組合立箕蚊屋中学校著

『豊かな心と学力を育み、共に支え合い高め合う生徒の育成』

日本協同教育学会刊 2500円

協同教育実践資料② 小松市立今江小学校著

『やる気満々、のびのび表現 できる城山っ子をめざして』

日本協同教育学会刊 2500円

*実践資料入手については監修をした杉江修治宛()
お問い合わせください。

事務局からのお願い

新しい年度に入りました。会員の方々には会費納入よろしくお願ひします。
1年分2000円です。

会の財政は、相変わらず、きわめて逼迫しています。

昨年度未納の方は4000円の納入をお願いいたします。

郵便振替 □座番号：名古屋前山郵便局 00800-8-166589

□座名称：全国協同学習研究会

事務局からさらにひとつ：e-mail アドレスをお持ちの方へ

この会報並びに様々なご案内をe-mailで送ってもかまわないという会員の方々、空メールで結構ですので事務局宛()、アドレスをお教えてください。
経費節減という事務局の勝手なお願いですが、ご協力いただければありがたく存じます。